



新 城 文 化

書 村田華城

編集・発行 新城市文化協会

令和8年度総会（記念行事）

◎総会報告 P 2

◎受賞者紹介 P 2
（受賞者作品紹介）

◎総会資料 P 3
（事業報告・計画・役員名簿）

◎県文連事業・加盟団体今後の計画 P 3

◎合併20周年記念講演要旨 P 4
講師 金子熊夫氏

激動する世界の中の日本
— 日本独自の伝統と文化を守るため

◎春の芸能祭 P 5

◎文協俳壇 P 5

◎活動の場を広げて P 6
（「のぼりまつり」に参加）

・詩吟クラブ
・きもの研究会
・ほうらい紅太鼓

（本年度より協会に加盟）

◎新能の見どころ P 7
能「船弁慶」
狂言「文荷（ふみにない）」

◎初心者入門講座を終えて P 8
・きものを着て袋帯を結んでみましょう
・ほっこり似顔絵入門

どなたでも大歓迎
令和8年度 初心者入門講座

◎参加費 一講座（全5回）2,000円
◎申し込み場所 文化協会事務局
（新城文化会館2階事務所東側）

まずはお電話での予約をお願いします。

◎受付日 火・木・金曜日

9時～12時、13時30分～16時30分

（月曜日が祝日の場合は火曜日休み）
電話 2317656

☆はじめてのフラ（ダンス）

日時：金曜日 午後7時15分～8時30分

（12月～1月の間で全5回）

会場：市民センターほづらい

講師：小林紗智子

（ハハラウ フラ オカブアノ ホマリーエ）

内容：丁寧な指導で初心者でも安心、大人の女性が対象です。

☆多文化共生と合唱

～みんなで歌おうプロジェクトのめざすもの～

日時：土曜日 午後1時30分～3時

（11月～12月の間で全5回）

会場：市民センターほづらい

講師：豊崎 規正（合唱団なごみ指揮者）

内容：老若男女、外国の方、どなたも参加できます。

☆初めてのパステル画

日時：火曜日 午前10時～12時

（11月～1月の間で全5回）

会場：新城文化会館

講師：山本 智恵

（新城美術協会）

内容：絵を描いたことのない方でもOK、やさしい色彩を楽しみましょう。



令和8年度 文化協会総会報告

副会長 亀甲 昌明

本年度総会は、5月24日(日)に開催いたしました。本年は合併20周年ということで、記念行事として記念講演(金子熊夫氏)を企画いたしました関係で、通常より30分早い開始の日程となり、ご来賓の方々をはじめ多くの皆様方には早々とご参加いただきました。ご協力ご足労に感謝申し上げます。

特に役員理事の皆様はじめ多くの方々には、手際良く準備用意をしていただき、開会から記念行事の終了まで順調にまた意義深い総会となりましたこと感謝申し上げます。

会は、天野会長の挨拶、本年度役員紹介、議事次第の前年度事業・決算報告、本年度の事業計画・予算説明と滞りなく進行できました。(紙面の関係上詳細はお知らせできませんが、必要な方はQRコードで本会のホームページや事務局へお問い合わせください。また本会報のP3総会資料、P4記念講演要旨、P5春の芸能祭報告など、ご参照ください。)

ご来賓の方々へ、ご祝辞をいただいた下江市長・佐宗市議会議長・峰野県議員・安形教育長のお四方は

じめ、小林市議会厚生文教委員長・原田市教育部長にご出席いただき、衆議院議員今枝様からは祝電をいただきました。また、協会の発展に寄与され大きな功績を残された方々に感謝状を贈呈しました。

◎受賞された方々

次の方々に感謝状を贈呈いたしました。(敬称略)

古川三千雄・原充代・林克江・近藤治夫・田中誠一

(当日、古川様は欠席されました。壇上での受賞は田中様が代表で受賞され謝辞を述べられました。なお、下段に受賞の方々の作品を紹介いたしました。)



受賞の方々

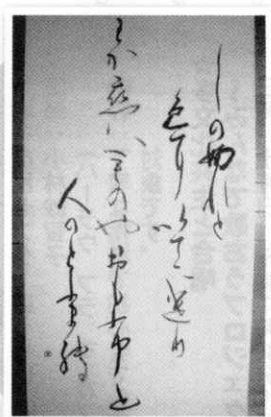
受賞者作品紹介 (敬称略)



新城美術協会
古川三千雄「梅農家」



菊友会 田中 誠一



書道クラブ
林 克江「百人一首」



書道クラブ
原 充代「多福」



盆栽双葉会
近藤 治夫

総会資料

令和8年度 事業計画(抜粋)

令和7年度 事業報告(抜粋)

4月 県文連東三河部連絡協議会
(新城市)
5月 新城市文化協会総会・春の芸能祭
県文連常任理事会・総会
(県図書館)
6月 夏期民踊講習会
(杉山公民館)
7月 「新城文化」No.58発行
県文連東三河部芸能大会
(民踊研究会・豊川市文化会館)
市民納涼茶会(中止)
市民文化祭
(文化展・市民芸能祭・市民茶会)
愛知県民茶会(大府市)
初心者入門講座開設
(似顔絵、きもの袋帯)
文化財めぐり
(久能山東照宮ほか)
第50回県文連美術展
(県美術館ギャラリー)
「新城文化」No.59発行
新春初釜茶会・初生け会(中止)
「新城文化」No.60発行

4月 県文連東三河部連絡協議会
(田原市)
5月 新城市文化協会総会
(合併20周年記念講演)
春の市民芸能祭
県文連常任理事会・総会
(県図書館)
7月 「新城文化」No.61発行
県文連東三河部芸能大会
(おここの会・豊橋市文化会館)
10月 愛知県民茶会
(豊田市)
11月 市民文化祭
(文化展・市民芸能祭・市民茶会)
初心者入門講座開設(3講座)
第51回県文連美術展
(県美術館ギャラリー)
文化財めぐり
12月 「新城文化」No.62発行
2月 「新城文化」No.63発行

県文化協会事業

去る4月22日(水)、田原文化会館において令和8年度愛知県文化協会連合会東三河部連絡協議会が開催されました。東三河部事業・県文連事業の担当文化協会などの確認があり、県文連事業報告・収支決算・計画・収支予算、美術展の案について、県民文化局文化芸術課より説明がありました。

○東三河部芸能大会(豊橋市文化会館)
7月12日(日) おここの会出場
○県民茶会(豊田市文化会館ほか)
11月15日(日)
○第51回愛知県文連美術展
(県美術館ギャラリー)
11月10日(火)～15日(日)

加盟団体 今後の事業計画

(市内で予定している行事です)
文化会館
☆新城美術協会
デッサン会 8月2日(日)・2月7日(日)
春季展 3月5日(金)～7日(日)
☆デザイン切り絵作品展
10月16日(金)～11月15日(日)
☆第38回春季新城書道展
3月下旬
☆新城写真クラブ作品展
9月・12月・3月前半

☆おここの会 桜結の会
第22回きらめきコンサート
7月20日(月)
☆大正琴弦洲会奥三河支部
45周年記念大会 8月29日(土)
☆ほうらい紅太鼓
こども陣太鼓発表会 1月17日(日)
☆新城能楽社・新城狂言同好会
第35回新城新能
8月22日(土) (新城市主催)
☆第103回新城吹奏楽団定期演奏会
12月13日(日)
その他
☆新城美術協会 スケッチ会
11月8日(日) 市内
☆新城写真クラブ作品展
8月・11月・2月後半 市民病院
☆詩吟クラブ 翔峰会一吟会
7月26日(日) 新城観光ホテル
10月18日(日) JA愛知東
☆大正琴弦洲会 クリスマス演奏会
12月
☆新城能楽社・新城狂言同好会
祭礼能奉納 10月9日(金) 富永神社
☆新城吹奏楽団
サマーコンサート 8月23日(日)、
スプリングコンサート 3月
☆きもの研究会
軽トラ市 打ち水大作戦
まちなみ情報センター ゆかた着付け
教室 7月、
振袖着付け練習会 11月(未定)

令和8年度役員名簿

役員 副会長 事務局長 常任理事 美術部 芸能部 文芸部 文教部	等 間 長 計 長 事 會 會 會 會	河合天野河亀兵金子澤今鈴木屋	合野合甲藤子澤泉鈴木屋	明雅秀明昌祐賢次夫三雄靖子	秀雅秀明昌祐賢次夫三雄靖子
理事 美術部 芸能部 文芸部 文教部	事 會 會 會 會	中山近藤平原加藤関谷伊東	中山近藤平原加藤関谷伊東	秀文冲俊久和裕愛子	秀文冲俊久和裕愛子
「美術部会」					
美術協会 デザイン切り絵 書道クラブ 水墨画協 写真クラブ		山本花田夏目竹内近藤	山本花田夏目竹内近藤	智恵三京位晤冲	智恵三京位晤冲
「芸能部会」					
詩吟ク おことの 大正琴の 民踊研究 舞踊研究 ダンス愛好 太鼓同好 吹奏楽団 合唱団 能楽協		平原阿部安井権田大谷石川竹下高木松下河合豊崎加藤	平原阿部安井権田大谷石川竹下高木松下河合豊崎加藤	俊伍ゆか和子三枝子初子みち子恵子美枝子好子美加秀明規正久和	俊伍ゆか和子三枝子初子みち子恵子美枝子好子美加秀明規正久和
「文芸部会」					
俳句會 読書會		亀甲関谷	亀甲関谷	昌明裕治	昌明裕治
「教養部会」					
茶華友の きもの研 盆栽双葉 菊友會 しんろ文化財に親しむ會		後藤佳代子 村松奈緒美 粕淵三郎 井土宜紀 鈴木久雄	後藤佳代子 村松奈緒美 粕淵三郎 井土宜紀 鈴木久雄		
「新城文化」編集委員					
亀甲昌明・中山秀文・安形昌志 柿原孝枝・菅恭世・鈴木さとみ					

激動する世界の中の日本

—日本独自の伝統と文化を守るため

外交評論家、元外交官、元東海大学教授 金子 熊夫

【現下の世界情勢と日米中関係】

米国のトランプ政権の再登場以来1年半、国際情勢はかつてないほどの混乱と激動期にあります。そうした状況の中で日本も厳しい対応を迫られています。平和と安全を守っていくためには、対米、対中関係が特に重要と考えられるので、そこに焦点を絞って論じてみたいと思います。

まず日米関係については、「アメリカ・ファースト」の外交戦略を強引に推進するトランプ政権との付き合い方が難題ですが、日本としては当面の動きに一喜一憂することなく、戦後80年にわたって築き上げてきた日米同盟関係を基軸としつつ、長期的視点に立って冷静に対応する姿勢が肝要です。トランプ政権は2年半後には終わるはずなので、その後の大統領が誰になるかが1つのポイントで、今秋11月の中間選挙の成り行きが注目されます。

次に日中関係については、高市早苗首相の「台湾有事」発言を契機に、習近平政権の対日政策が一段と硬化しています。今後中国の強大国化（覇権主義国化）は益々進展するだろうから、その前提で、日本として

は臨機応変、弾力的に対処する以外にありません。その際、同盟国である米国との連携が大事ですが、米国のべつたりということではなく、日中両国間の諸々の歴史的事情や経緯に照らして、日本独自の対中外交を模索し、展開していく努力が必要です。

【日中交流の歴史の変遷】

日中は、地理的には一衣帯水の近隣国、歴史的には「同文同種」の国として、奈良時代から緊密な関係を維持してきました。特に文化面では、漢字や仏教の導入、江戸時代以後は儒教思想により大きな影響を受けてきました。しかし、共産主義革命による新中国の建国（1949年）以後、とくに毛沢東主導の文化大革命（1966～76年）で伝統的な儒教思想は全否定され、貴重な文化遺産の多くが破壊されました。漢字自体も大幅に簡略化され、同文同種の利点も減少しました。

一方日本でも、平安時代以後「ひらかな」と音訓読みが普及したこと、で中国語との違いが拡大し、双方の意思疎通が困難になったことは確かです。同じ漢字を使っているにもかかわらず、意味するところが微妙に違い、あらぬ

誤解を招くという場合が少なくありません。

私自身の個人的経験からしても、日中国交正常化（1972年）の2年後に初めて訪中して以来約20年間に頻繁に訪中し、一般の中国人とも親しく交流しましたが、天安門事件（1989年）の突発ですべてが一変、中国側の対日態度も厳しくなりました。こうした状況を少しでも改善し、以前のような友好関係を再構築すべく微力を尽くしたいというのが、人生の最終章を迎えた私自身の強い念願でもあります。

【文化交流の重要性とその方法】

日中関係改善のためには様々な方法がありますが、ここでは文化面での交流について考えてみます。上述のように、両国の長い文化交流の中で、漢字・漢文が果たしてきた役割は大きなものがあり、ここを足掛かりとして何かできないかということとです。

1つの分野として考えられるのは、書道です。中国では、共産革命以後、伝統的な書道（中国語では書法）への関心はすっかり希薄になったようですが、教養のある一般市民の間では、書を嗜む気持ちは残っていると思われれます。ただ、日本の書道では「ひらかな」や「変体かな」が多用され、優美さが尊ばれるのに対して、中国では漢字オンリーでごつごつした感じを求めません。そうした違い

を理解した上で、双方の良いところを学び合うという姿勢が大事でしょう。

具体的な交流のスタイルや方法についてはここで詳述する余裕がありませんが、私案をごく簡単に申し上げます。

第1段階として、日中間の交流が中心になりますが、それが軌道に乗れば、次の段階で、アジアの「漢字文化圏」諸国、すなわち日中のほかに韓国、ベトナムを加えて、書道教育面での交流（指導者や教材の交換など）、共同展示会（オンライン）の開催へと積み上げていく。新城市文化協会が中心となって、全国の同好者にも協力を呼び掛ける。資金面では日本の国際交流基金（ジャパン・ファンデーション）の助成申請も検討する。また、必ずしも書道だけに限定する必要はなく、茶道、華道、舞踊、東洋式楽器演奏などを適宜組み合わせるのも一案。さらに、当然のことながら、書道教育は国内の学校教育でも大いに振興すべきで、一層の創意工夫が必要（書道教育は正しい筆順を覚えるためにも有効）。要は、日本独自の貴重な伝統文化を守ると同時に、日中を含むアジアの近隣諸国間の文化交流を深め、以って世界平和に貢献するという遠大な目標を掲げ、できるだけ努力するということ、しんどい作業かもしれませんが、是非頑張っていたきたいと思います。

令和8年度 春の芸能祭を終えて

副会長 河合 秀明

5月も終盤にさしかかり、周りを見渡せば、田植えも峠を越えたように見えます。あれ程雨が降らなく、悲鳴を上げていた宇連ダムも、やっと70%の貯水率を維持できるようになったようです。

ここ数日、天気が気がかりで、スマホで新城の週間天気を見るのが習慣となりました。

5月24日(日)は新城市文化協会総会が開催され、午後から市民芸能祭がとりおこなわれ、何とか雨の心配もなく無事終えることができました。

今回は大正琴の会が1団体減って2団体となり、その他にもおここの会が1団体減り、太鼓同好会も覇城太鼓が退会するなど、厳しい状況が続いています。

しかし、ほうらい紅太鼓の新規加入もあり、また合唱団「なごみ」も次回の出演にむけて準備しているように、明るい兆しも見受けられます。

合併20周年の記念すべき今回の芸能祭も、大正琴の会40人、太鼓同好会で8人、舞踊研究会で5人、おここの会で5人、新城吹奏楽団で30人、民謡研究会で40人、ダンス愛好会で

100人と、総数約230人の参加で盛んにとりおこなうことができました。



ほうらい紅太鼓

芸能部を統括する私にとって、会員の皆様により感謝申し上げます。また今回参加できなかった会員の皆様も、受付や舞台の手伝い等、本当にありがとうございました。



ハーラウ フラ オ カブアノ ホマーリエ

また明日から秋の芸能祭にむけて準備して参ります。そして新しい仲間が増えることを期待しています。市民の皆様、よろしく願います。

文協俳壇

夕星に白き落下の夏椿

水温み鯉の水輪のゆつたりと

虎落笛憂ふコロナの時の闇

富永 今泉真紗子

雪解や命育む音を聴く

波引きて片ひら淋し桜貝

敦盛も笛吹きたるや花の下

本町 大原 綾子

やきいもの黄金の切り口湯気上がる

秋晴れやセーヌ行き交ふ遊覧船

貸しボート待つ列長し花の下

橋向 小沢 清子

刃こぼれの切れあじ悪し残暑かな

腸までも食べる秋刀魚のほろにがし

湯上がりの夜風にふるる単衣かな

菅沼 加藤有美子

脳天の空回りする酷暑の日

満天の星に成る虫忍び鳴く

色消えて余白だらけの冬の原

黒瀬 駒田孫三郎

ひそやかに夜気に目覚める月見草

せせらぎの終わりのなき音宵涼み

風に乗り吉報きたり金木犀

東沖野 米谷 実紀

葉の花やしあわせそうな親娘づれ
石垣に名もなき草も芽ぶくかな
実南天白壁にゆれ空青し

大野 下江とき子

初夏の風ペダル軽やかお買物

ふるさとを思ひて薬とく粽かな

役三つ受けて忙し四月馬鹿

上平井 長坂 真澄

海と湖ひき合う波や日ぐれ鴨

出目金のあぶくの一つ空の色

鶯や化粧の乗りの良き朝

川田 濱口 恭子

根分けして花壇に並ぶ鉢の数

甘茶仏乾きかけては人の来し

メロディに昭和を偲ぶ初秋の夜

海老 原田 静子

春浅し白銀の峰雲寄せず

へぼ胡瓜パキッシャキッと青い香よ

二万歩の先の紅葉一人占め

大野 牧野和英子

童謡は文語のままに秋夕焼

花を見せ地獄を見せるこの世かな

地虫出づ古墳の謎は謎のまま

宮ノ前 亀甲 昌明



長篠合戦のぼりまつり

詩吟クラブ 平原 俊伍

私たち不朽流翔峰会は毎年5月5日の長篠合戦のぼりまつりで本丸跡にて詩吟奉納をしています。今年で第61回。第40回位よりの参加で恒例となつていきます。6名の合吟で郷土の英雄「鳥居強右衛門」作者「松口月城」強右衛門が磔刑となつた無念の思いを吟じさせて頂きました。

今年は新城観光大使のマチカルラブリー村上さんが出場され、大勢の人で賑わいました。また、今回はサブステージで大きな声で吟ずる詩吟の健康法などを発表することができました。これを機に愛好者が増えるよう願います。



のぼりまつりでの着付け

きもの研究会 村松奈緒美

新緑が綺麗な5月5日、今年も「長篠合戦のぼりまつり」が盛大に開催されました。

私たち「きもの研究会」では、合戦行列の着付けを担当しています。勇壮でかっこいい武将の甲冑の着付けと、華やかで美しいお姫様のメイク、髪、着付けを、心を込めてさせて頂いています。特別な衣装をまとって主役として歩く皆様の姿は、地域を活気づけるパワーがあります。素敵な思い出になつてくだされば幸いです。

これからの歴史ある和の文化を未来につなぐため活動を続けてまいります。イベント等の着付けや和装でのお困りごとがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



ほうらい紅太鼓

峰野 恵子

私たちは36年前に旧鳳来地区で結成しました。きっかけは、地元の神社の余興に主婦が何かやりたい！と考えた末、長篠陣太鼓に決まりました。



当時、長篠地区の5つの小中学校では、長篠合戦の絵屏風に描かれた血染めの太鼓から、クラブ活動として子どもたちが陣太鼓を習っていました。学習発表会で観る子どもたちの勇壮で元気の良い姿と、太鼓の響きに憧れて、保存会の方から猛特訓を受け、無事に余興は終わりました。

やれやれ大役は果たせたと安堵したのも束の間、女だけの太鼓集団は珍らしがられ、各方面からの依頼がありました。県内外はもとより、ハワイの「日本祭り」への参加が一番の思い出となっています。

コロナの影響を受け、発表する場

もぐんと減っていたため、今回のステージでの発表はとても意義のあるものになりました。太鼓を叩く側と観て下さるお客様との手拍子での一体感は続けてきてよかったなあと幸せを感じました。

何度も廃部の危機にみまわれたけれど、現在は高校生から70才代まで15人のメンバーで演奏を続けています。

戦に行く兵士の士気を高めるために生まれたであろう太鼓の響きが、叩く人、参加する人が楽しくなるリズムになるよう、これからも練習を重ねていこうと思っています。



第35回新城新能 能「船弁慶」

能楽協会（新城能楽社）
今泉 英三

新城新能は8月22日に第35回目を迎え、能の演目「船弁慶」は6回目となります。

能一番の始まりには必ず鏡の間（幕内）で囃子方が「お調べ」を奏めます。これはオーケストラでいうチューニングにあたるもので、お調べが静まると笛・小鼓・大鼓・太鼓の順に登場します。笛方が橋掛りから舞台にさしかかると同時に切戸口（舞台上手）から地謡方が入ってきます。小鼓・大鼓方が床几に腰かけ準備が整うと笛の甲高い「ヒシギ」の音を合図に囃子が始まり義経（子方）、弁慶（ワキ）、従者（ワキツレ）が旅姿で登場し、義経一行が西国に落ち延びるに至った経過を述べます。

一行が大物の浦に到着すると、弁慶は西国への舟に静御前（前シテ）を連れての旅は危険と判断し、都に返すよう義経に進言し静御前に促すも聞き入れられません。静御前は自ら義経に確認したいと登場します。義経は静御前をさとし弁慶に命じて酒をすすめるも、なおも嘆く静御前に烏帽子を渡し舞を所望します。静御前は舞（中之舞）を舞い終えると、泣く泣く烏帽子を脱ぎ捨て涙に咽び

ながら義経の無事を祈って別れを告げ静かに幕内に去ります。

弁慶が「急ぎお舟を出すべし」と船頭（狂言方）を呼び、義経一行が海へ漕ぎ出し瀬戸内海を航行していると突如、風が変わり激しい暴風雨に見舞われます。船頭の必死に棹で舟を操る所作と言葉にあわせ、大鼓・小鼓による「波がしら」という強いリズムの囃子で波を表現することにより、嵐の押し寄せる緊迫感をも少し出し後半へと急展開します。

やがて波間から壇ノ浦で滅亡した平家の怨霊たちが浮かび上がり、太鼓・笛も加わり「早笛」の囃子につて総大将の平知盛の霊（後シテ）が薙刀を手に現れ、義経を海に沈めようと襲いかかってきます。義経も刀を抜いて立ち向かいますが、打物業（刀）では敵わずと弁慶が押し隔て数珠をさらさらと押揉み、不動明王の法力をもつて祈祷すると知盛の霊は次第に勢いを失い、又引く汐に揺られ流れて波間に消え、やがて何



あやかし
能面「怪士」

事もなか
つたかの
ように白
波だけに
なります。

能面は静御前に「小面」、平知盛の霊に「怪士」を使用し、テンポよく変化に富んだ劇的葛藤を盛り込んだ見せ場の多い人気曲ですので十分に楽しんでいただけたと思います。

第35回新城新能 狂言「文荷」解説

能楽協会（新城狂言同好会）
天野 雅夫

私たち狂言同好会は、今年は狂言「文荷（ふみにない）」を上演します。能と共に室町の時代より発展してきた古典芸能である狂言ですが、古典芸能であるがゆえにともしれば堅苦しい、難しいものというイメージを持たれがちです。しかし実際は中世に発生したセリフ劇であり、劇の内容もほとんどが喜劇であり、大変親しみやすい演劇なのです。よき多くの皆様にご来場いただき、楽しんでいただけるよう、狂言「文荷」を解説させていただきます。

まず登場人物は太郎冠者、次郎冠者2人の召使と主人の3人です。狂言の特徴ですが登場人物に固有の名前はあります。どこかの召使1と2、どこかの主人といったところでしよう。

この主人、最近衆道（若衆遊び）に夢中です。今日も相手であるせんみつ殿に手紙を持っていくように2人の召使に命じます。そんな遣いはしたくない2人は色々理由をつけて断ろうとしますが、終には主人の怒

りを買ひ、渋々出かけることになりました。

主人の若衆遊びを快く思っていない2人は、手紙を持って歩く道中主人の悪口を言い合ったり、主人の様子をからかったりしながら行きますが、公平に手紙を持ち合おうと1本の竹に手紙をぶら下げて2人で前後を担いながら行くことにします。謡を謡いながら行きますが、あまりに重いと中身を開けてみることにします。

中身を読めばなるほど重いはずで「恋しや（小石や）恋しや」と小石がたくさん書かれています。「懐かしさは富士の山の様だ」と富士山まで書いてあります。あれこれふざけあううち、ついには手紙を奪い合い破ってしまいます。

風の便りという言葉もあります。破れた手紙を扇であおぎ、風に乗せて届けようと、最後までふざけあう2人です。



良き出会いに感謝します

きもの研究会 伊東 愛子

1月24日から毎週土曜日の夜に5回、新城文化協会の初心者入門講座をさせていただきました。きもの研究会でお仲間の村松奈緒美講師にもお手伝いいただき、「きものを着て二重太鼓を結ぶ」ことに挑戦しました。



い5日間でした。良き出会いに感謝しております。



ご都合で最後までご出席できなかった方、終了後もお稽古を続けたいという方が何人かおられ、いまは平井公民館教室等に通ってきてくださっています。

新城文化協会のきもの研究会には自分できものを着られて少しは人にも着せられるようになると入会できます。新城文化協会の文化展などで活躍できることを目標に、装賀流の「きものを美しく楽に着る」お手伝いをしていきたいと思っています。

ほっこり似顔絵入門

講師 吉倉 章雄

この講座を、似顔絵研究会まで残った方はわずか、これでは会は成立しないので、金曜日の私の講座「色鉛筆でスケッチしよう」に合流。

絵をうまく描くことより、楽しく描こうを心に秘めながら楽しい研究会となることを願っている。

「色鉛筆で似顔絵を描こう」に挑戦。新城文化祭で、会いましょう。



編集後記

年度最初の会報のため、総会報告が多くなりますが(P2)~(P5)ご了承ください。

総会恒例の諸報告(P3)後、これも恒例の協会発展に寄与された方への感謝状の贈呈。受賞の方と作品をご紹介します(P2)。総会後の「芸能祭」(P5)参加や、その他にも各分野の活動は年度末・新年度と続けられており、多くの分野の発表・展示が計画実施されています(P3)。その中から「のほりまつり」に協力参加された詩吟、紅太鼓(本年度より協会に加盟)、また裏方として武者行列の着付けをされたきもの研究会の活動を紹介しました(P6)。

ご紹介が前後しましたが、総会のメインである「合併20周年記念講演」を郷土の先輩金子熊夫氏にお願いし、聴衆に深い感銘、また示唆を与えていただきました。その要旨を講師自らにお書きいただき掲載いたしました(P4)。ご熟読ください。紙面の関係で簡潔な紹介で失礼しますが、恒例の紙面となりました。「新能の見どころ」(P7)「俳壇」(P5)好評だった「初心者入門講座の報告」(P8)などぜひご一読ください。(亀 甲)

新城市文化協会事務局

新城市字下川1の1
☎ 23-7656

